

第3章 | 計画の目標

3-1

長期的に目指す将来像

～杜の都環境プランに掲げる「脱炭素都市づくり」～

「杜の都環境プラン」では、目指す環境都市像として「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」を掲げるとともに、その実現に向けて5つの分野別環境施策を定めています。

本計画における長期的に目指す将来像は、杜の都環境プランの分野別環境施策の一つである「脱炭素都市づくり」とします（図3-1）。

【杜の都環境プランにおける環境都市像】

杜の恵みを活かした、持続可能なまち

※詳細は36ページ参照



【杜の都環境プランにおける分野別環境施策】

脱炭素都市づくり

本計画で長期的に
目指す将来像

自然共生都市づくり

資源循環都市づくり

快適環境都市づくり

行動する人づくり

図3-1 杜の都環境プランと長期的に目指す将来像の関係

脱炭素都市とは・・・

脱炭素都市とは、二酸化炭素*をはじめとした温室効果ガス*の排出量について、排出削減と吸収源確保の取り組みにより、実質的にゼロ（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）を達成した都市を指します。

(1) 温室効果ガスの削減目標

本市は、「杜の都環境プラン」に掲げる「脱炭素都市づくり」の実現に向け、令和12年度（2030年度）における温室効果ガス*排出量を平成25年度（2013年度）比で35%以上削減（森林等による吸収量を含む）します（中期目標）。

また、中期目標の先の最終的なゴールとして、令和32年（2050年）における温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します（長期目標）。

【中期目標】

令和12年度（2030年度）における温室効果ガス排出量を
平成25年度（2013年度）比で35%以上削減
（森林等による吸収量を含む）します

【長期目標】

令和32年（2050年）温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します

(2) 中期目標の考え方

1) 現状すう勢による将来推計

温室効果ガス*の削減目標を設定するためには、削減のための追加的な対策を行わず、人口の増減や経済成長等を加味し、将来の排出量を推計する必要があります。この推計方法を「現状すう勢（BAU：Business As Usual）」といい、本計画における将来の温室効果ガス排出量は、この「現状すう勢」に基づいて推計しています。

「現状すう勢」に基づく令和12年度（2030年度）の温室効果ガス排出量は、基準年度である平成25年度（2013年度）から22万トン減少し、889万トンとなる見込みです（図3-2）。

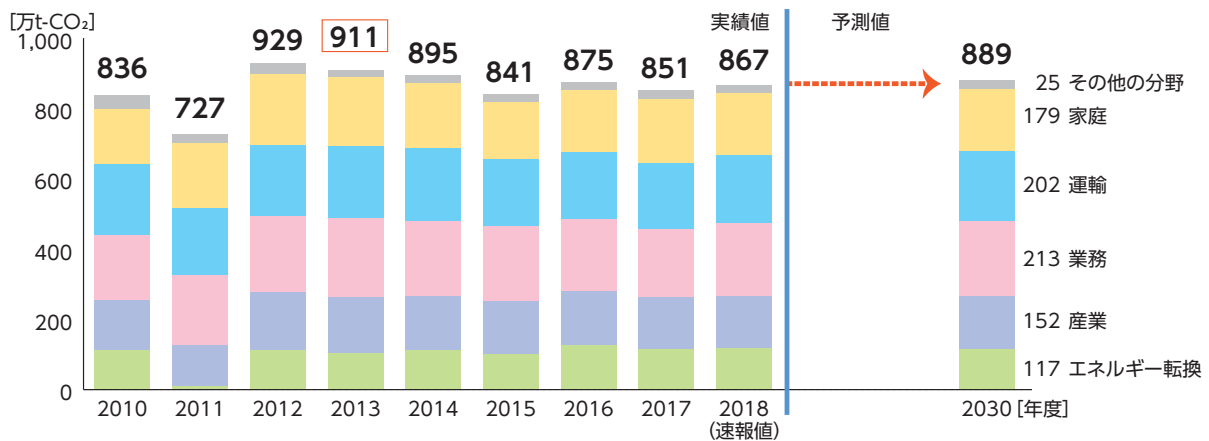


図3-2 本市の温室効果ガス排出量の将来推計 (現状すう勢)

2) 中期目標の設定

中期目標は、現状すう勢による将来推計を基に、国が「長期エネルギー需給見通し」で定める電源構成等を前提とした、国の「地球温暖化対策計画」に基づく施策に加え、本市独自の施策による温室効果ガスの削減量を積み上げることで設定しています。

これらの施策による削減量を考慮し、国における削減目標（森林等による吸収量を含み26%削減）を上回る、平成25年度（2013年度）比で35%以上の削減とします（図3-3）。

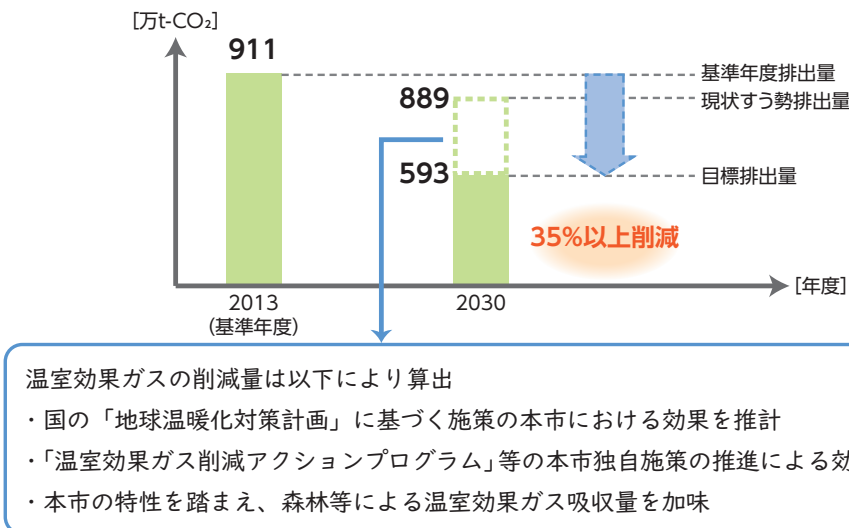


図3-3 中期目標による削減のイメージ

中期目標における部門・分野別の削減量及び目標排出量の内訳は表3-1のとおりです。
(詳細は巻末資料参照)

表3-1 本市の温室効果ガス目標排出量

[万t-CO₂]

部門・分野	基準年度排出量 (2013年度)	現状すう勢 排出量 (2030年度)	削減量	目標排出量 (基準年度比削減率)
エネルギー転換	105	117	25	93 (▲12%)
産業	159	152	54	98 (▲38%)
業務	223	213	100	113 (▲50%)
運輸	205	202	34	168 (▲18%)
家庭	196	179	62	118 (▲40%)
その他の分野	23	25	8	17 (▲22%)
小計	911	889	282	607 (▲33%)
森林等による吸収量				▲14
上段：目標排出量				593
下段：目標削減率				(▲35%)

※四捨五入の関係で合計が合わない場合があります

(3) 長期目標

本市では、中期目標の先にある「脱炭素都市づくり」の実現に向け、令和32年（2050年）における温室効果ガス*排出量実質ゼロを長期目標とします（図3-4）。

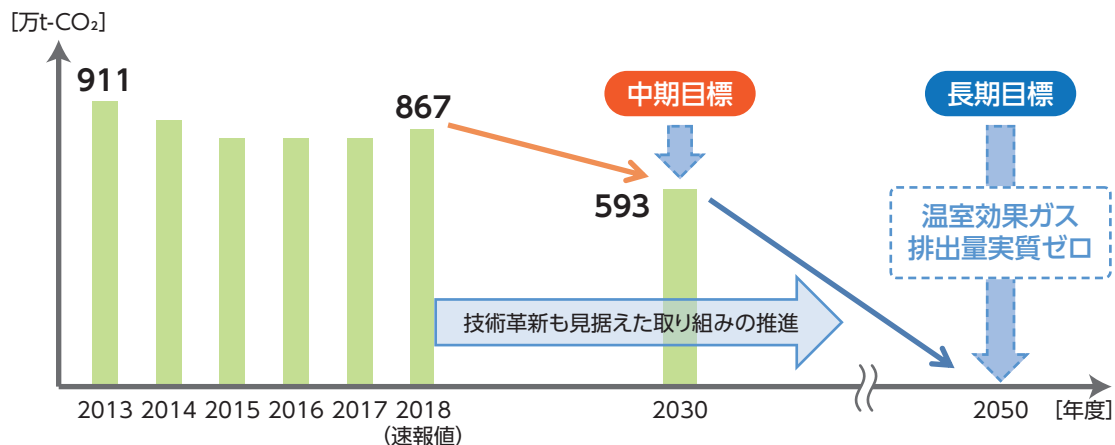


図3-4 長期目標のイメージ

国の「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略*」では、今世紀後半のできるだけ早期に排出実質ゼロの実現を目指すことなどが掲げられていますが、その達成には温室効果ガスの大幅削減につながる技術革新（イノベーション）が必要とされています。

本市においては中期目標の達成に向けた施策を着実に推進しながら、技術革新等の動向を踏まえ、長期目標である実質ゼロを目指し率先して取り組みを進めていきます。

なお、国の「地球温暖化対策計画」等においては、以下のような長期的な施策等が示されています。

- 極限まで省エネルギーを進めた高効率設備（空調・照明・給湯）による ZEB*・ZEH*・LCCM 住宅*の実現・普及や、IoT*・AI 等を活用した住宅・建築物・コミュニティ・地域・都市のシステム全体におけるエネルギー使用の最適化
- 高効率、軽量化等の特性をもつ革新的な太陽光発電システムや、エネルギーの貯蔵手段として活用できる次世代蓄電池の開発、水素製造などの低コスト化の実現
- 事業活動などから排出される二酸化炭素*を回収して地下に貯留する CCS*の技術や、回収した二酸化炭素を原料としてバイオプラスチック*や化学製品を作る、カーボンリサイクル技術の確立
- モノ（物品・オフィス・自動車など）を共有するシェアリングエコノミー、サプライチェーン*やバリューチェーン*など事業活動全体で実質ゼロを目指す動きなど、社会情勢の変化も見据えたライフスタイル・ビジネススタイルの変革

杜の都環境プランで目指す環境都市像

「杜の都環境プラン」では、目指す環境都市像として「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」を掲げ、本市の重要な都市個性であり、まちづくりの基盤となる「杜の都」の良質な環境を維持・向上させ、将来へと確実に継承するとともに、本市の強みを活かしながら、魅力的な都市として持続的に発展していくことを目指すこととしています。また、この環境都市像のもと、3つの目指すまちのあり方を掲げています。

【環境都市像】 杜の恵みを活かした、持続可能なまち

～目指すまちのあり方～

「全ての主体が環境のことを考え、行動するまち」を目指します

持続可能な社会の構築に向けては、一人ひとりが環境に配慮したアクションを起こすことが重要です。

環境配慮行動が、快適で豊かな暮らしや企業価値の向上、そしてまち全体の成長につながるという考え方が共有され、多様な主体が連携・協力しあうことにより、仙台らしい、環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルが定着したまちを目指します。

また、こうした行動のあり方を「杜の都スタイル」として内外に発信します。



「『杜の都』の資源が活用され、循環するまち」を目指します

本市の強みである、多様な自然環境や、自然と調和した都市環境、そして環境課題に取り組む市民の力を「杜の都」の資源として捉え、最大限活かすとともに、地域や人をつなぎ、市域内での循環を図る持続可能なまちを目指します。



「環境への取り組みが新たな価値を生み、成長を促すまち」を目指します

本市の強みを活かしながら、環境への取り組みを推進し、あわせて経済の活性化や、心の豊かさ、まちの品格・風格も向上させ、環境と成長の好循環が生まれ、続いていくまちを目指します。

また、仙台を起点として環境価値を広め、杜の都のブランド力の向上を図ります。

